

アジアの平和と核

国際関係の中の核開発とガバナンス

広島市立大学 広島平和研究所 編

アジアは平和地帯へ移行しているのか、 後退しているのか――

アジアは「戦争のない地帯」と呼ばれるが、決して「平和地帯」ではない。地域内の国家統治システム（ガバナンス・システム）は多様であり、一部の非民主的國家では著しい人権侵害が行われている。また、自國の安全保障のために軍拡競争が展開され、軍事的な緊張関係が慢性的に続いている――。

広島平和研究所の研究者と共同通信の編集委員らが、世界の核の現状とともに、日本の安全保障政策、中国、北朝鮮、インド、パキスタンなどの核とガバナンスの現状を分析、地域平和の行方を考察する。

- 序論 今、なぜアジアの核とガバナンスを問うのか
- 第1部 特集テーマ 原爆投下と日本の安全保障政策
- 第2部 核兵器の開発と国際関係
- 第3部 人間の安全保障とガバナンス
- 第4部 アジアの平和と国際機構
- 第5部 資料編



1月24日取次搬入予定（事前注文締切：1月17日） FAX :03-5568-1109

新刊委託注文書	書店番線印	編著者	発行
	ご担当者様名	広島市立大学 広島平和研究所	共同通信社
様	部	書名	
		アジアの平和と核 国際関係の中の核開発とガバナンス	
		ISBN 978-4-7641-0710-6 C3031	
		A5判 並製 336ページ 定価：本体2,500円+税	